

個人質問



代表質問の後、13人の議員が個人質問を行いました。
質問の一部を抜粋してお知らせします。

パブリックコメントに関する市長発言

質問者 風間 重樹 (志政会)

新清水庁舎建設基本構想案のパブリックコメントの実施に関する市長の「大きな方針の変更はしない」との発言の意図を聞きたい。

また、この発言がパブリックコメントへ与える影響をどのように考えているか。

さらに、庁舎移転の合意形成は十分できていると考えているのか。

答弁 基本構想案は、多くの市民の意見を基に検討委員会で議論を重ねた上でまとめたことから、根幹に係る方針の大きな変更は考えていない旨の発言である。

したがって、その発言はパブリックコメントに影響を与えるものではないと考えている。

また、最終的な合意形成の判断は市議会の議決と考えているが、これまでも市民アンケートや検討委員会での議論など合意形成に向けた十分な手段を講じてきたところである。

市民意見の反映

質問者 内田 隆典 (共産党)

市長は、静岡市新清水庁舎建設基本構想案に対するパブリックコメントで反対意見が多数寄せられても基本方針は変えないとのことだが、単に市民の意見を聴くだけでなく聴取した意見を十分に検討することが、パブリックコメントについて規定する静岡市市民参画の推進に関する条例第10条の趣旨である。

この条例の趣旨に鑑みた場合、市長の対応は問題が多いのではないかと。

パブリックコメントにより市民から出された貴重な意見については、構想や計画に反映させるべきではないかと。

答弁 パブリックコメントは意見の数や賛否を問うものではないが、市民の皆さんからいただく多種多様なご意見のうち、施策案をより良いものとするご意見については、積極的に基本構想に反映させていく。

がん検診の受診率とその向上策

質問者 山梨 渉 (公明党)

がん検診の受診率の実績と受診率向上のための今後の取組を問う。

答弁 本市で実施している6種類のがん検診の平均受診率の過去3か年の推移は、26年度は21.6%、27年度は21.7%、28年度は21.2%で、27年度までは受診率が向上していたが、28年度は低下した。

受診率向上のため、29年度は民間企業と協力した検診のPRのほか、子育てに忙しい女性のための無料託児付き子宮頸がん・乳がん検診を7か所全12回実施し、また、平日に働く女性のための日曜検診を試行的に葵スクエアで実施した。

30年度は、これらの取組をさらに拡大し、無料託児付き検診を全16回と日曜検診を新たにアピタ静岡でも実施する予定である。今後も受診率向上に向け取り組んでいく。

語句説明

駿府城御本丸御天守台跡之図 (すんぷじょうごほんまるごてんしゅだいあとのず)

静岡県立中央図書館に所蔵されている江戸時代の天守台絵図。これによると堀の水際西辺約66m、北辺約60mであったと記録されている。

駿府城天守台整備の方向性

質問者 丹沢 卓久 (自民党)

天守台発掘調査の状況と今後の天守台整備の方向性を問う。

答弁 これまでの調査の結果、複数の年代の石垣が発掘された。発掘された西側と北側の石垣は「駿府城御本丸御天守台跡之図」の寸法とほぼ一致し、江戸城をしのぐ日本一の規模の天守台であったことが市民の関心を集めた。

しかし、掘り出された石垣には石割れが一部に見られ、現状維持や石材の再利用が困難なことや、発掘調査に伴う発生土の活用方法など、喫緊の課題も見えてきた。

このため、発掘調査が終了する31年度までに天守台整備に関する市の考え方を整理していく。今後も引き続き、世界に存在感を示す歴史文化拠点の実現に向け、市民の皆さんの協力を得ながら駿府城再建を目指していく。

語句説明

本市が実施するがん検診

胃がん、肺がん、大腸がん、子宮頸がん、乳がん、前立腺がんの6種。

発達早期支援事業

質問者 山根 田鶴子 (自民党)

発達早期支援事業の目的と経緯はどのようなものか。

答弁 本事業は、子どもの発達において特に重要と言われる1歳半から2歳頃の時期に、個々の成長に合わせた声かけや自由遊びをとおして、コミュニケーションや社会性などの発達を促すための適切な支援を行うことを目的としている。

平成28年2月に関係局において、長年の懸案であった、発達の気になる子への対応について協議を開始した。同年5月には静岡医師会からの要望を受け、浜松市の取組も参考にしながら、平成29年4月、子どもの特性に応じた支援を行う「あそびのひろば」をモデル事業として1か所立ち上げた。事業の検証を踏まえ、30年度には「あそびのひろば」を3区に拡充することとした。



駿府城跡天守台発掘調査現場

介護予防と生きがいづくり

質問者 井上 智仁 (公明党)

本市の介護予防の現状と、団塊の世代が75歳以上になる2025年を目指した事業展開をどのように考えているか。

答弁 高齢者が元気でいきいきと活躍することができるまちを目指すには、介護予防や生きがいづくりを進めることが重要である。

本市では、元気でいきいき！シニアサポーター事業やS型デイサービス、しぞ〜かでん伝体操など、市民一人ひとりの介護予防等につながる自主的な取組への支援を継続していく。

また、人生100年時代を見据え、高齢者の就労支援に取り組むとともに、生涯活躍のまち静岡(CCRC)推進事業を本格実施する。

こうした介護予防や生きがいづくりの事業、高齢者の活躍の場の創出、健康長寿のモデル地域づくりなどに総合的に取り組み、「健康長寿のまちづくり」を推進していく。

語句説明

元気でいきいき！シニアサポーター事業

介護施設やS型デイサービスでのボランティア、在宅高齢者の支援等の活動をするポイントがたまり、静岡市の地場産品と交換できる事業。

S型デイサービス

地域のボランティアの方々などが中心となって、在宅の高齢者の社会的孤立感の解消や健康な体づくりを目的とした活動。

子どもの貧困対策

質問者 鈴木 節子 (共産党)

困難を抱える子どもや家庭へ必要な支援を届けるため、どのように支援体制を充実させ、周知していくのか。

答弁 支援に当たっては、子どもや家庭が支援を必要としている状況にあることに気づき、適切な支援機関につなげることが重要である。そのため、学校やこども園の教職員の「気づく力」を高める研修のほか、行政・学校・地域など関係機関が情報共有・情報交換する場や機会を設けるなどの支援体制を整えていく。

また、支援情報をまとめたリーフレットを作成し、保護者自らや支援者が活用することで、適切な支援につながるよう周知にも努めていく。